

第63回 町民スキー大会

3月6日（土）東山スキー場で、和寒町と和寒町防犯協会の主催による第63回町民スキー大会を開催しました。

和寒スキー少年団アルペン部3名による息の合った選手宣誓により大会が開幕、クロスカントリー競技とアルペン競技の2種目が行われ、60名が参加しました。

子どもから大人までお互いに応援し合いながら一生懸命滑る姿が印象的でした。

レクリエーションでは、滑った距離を競う「スノーチューブ滑り」と、景品目指してジャンプ台を駆け上がる「宝取り大会」も行ない、ウインタースポーツを満喫した笑顔が一杯の一日となりました。

応援に見えた方からは、「スキー場で友達と楽しそうに遊んでいる子どもの姿が見られて良かったです」とお話が聞けました。



※大会成績は和寒町のホームページ→教育委員会施設のページ→和寒東山スキー場のページに掲載しています。

和寒小学校に上川管内教育実践表彰

和寒小学校（福田孝夫 校長）が、令和2年度 上川管内教育実践表彰を受賞しました。同表彰は上川管内の学校教育、社会教育の向上に大きく貢献している団体や個人を表彰し、管内教育の振興に寄与することを目的としているもので、本年度は管内の3団体（うち学校2校）、2個人が選出されました。

和寒小学校では、「確かな学力」を育む「普段の授業」の改善として、子どもたちに「どんな力をつけるのか」、「何ができるようになればいいのか」など、ねらいを明確にした授業改善に取り組んできました。ティームティーチングや少人数指導によるきめ細かな指導、本年度から配置された授業改善推進チームによる授業の改善なども、児童の学力向上につながっています。

また、全ての普通教室に整備された双方向大型プロジェクター（電子黒板）と大型スクリーンや電子教科書、3学期から全児童に配備されたタブレット等を活用し、児童が主体となる学習活動を行うなど、ICTによる教育の充実が図られています。

さらに、特別支援教育においては、職員打ち合わせの時間に学級交流を行い、児童の様子や指導・支援をする上での共通理解を図ったり、校内研修にインシデント・プロセス法を取り入れたケース会議を位置付けたりすることで、教職員全員が「ベクトル」（児童理解や実践の方向性）を合わせ、特別支援教育の充実を図っています。



2月26日、和寒小学校において、河野秀平 北海道教育庁上川教育局長から表彰状が授与されました。授賞後、河野局長から、「（本校の優れた実践は）表彰されて然るべきだと思う。職員の皆さんも、これを励みとして、今後も充実した教育活動を推進していただきたい。」との労いと激励の言葉をいただきました。その後、福田校長から、「これを励みに、さらに精進して、子どもたちの未来のために頑張っていきたい。」と感謝と決意の言葉が伝えられました。